

## 中国語における「主語」について

小林 立

中国語には西欧語のような屈折作用や日本語のような助詞はない。中国語は典型的な概念語であり文法の基本は語順にある。その特性に沿って中国語の「主語」も規定すべきだが実際はなかなか難しい。中国語の主語には体系的に二種の規定がある。一つは「主格の語」、もう一つは「主題の語」とする考え方である。動作や属性の主体が「主格の語」であるが中国語の主語はそうでないものもまた多い。例えば「工作做完了（仕事はやり終えた）」「賊拿住了（賊はつかまえた）」の「工作」「賊」は「主格の語」ではない。もし主語を「主格の語」とすれば「工作」「賊」は動作を受けるものであるから「客語の提前」とか「受身」とかいった結論になる。しかし中国語は本来的に主語と述語の間に「主動」「受動」を意識しない言語で、受身の文は被害を蒙む場合が多く、五四運動以後、欧化した文体が中国語に現れたといわれる。上例を受動文に書き改めれば「工作被人做完了」「賊被警察拿住了」といった表現になろうが中国語はわざわざそういう言い方をしない場合が結構多いのである。そこで中国語文法の基本である語順に則って、主語は「主題の語」で、述語はその「解説」と規定すれば「主格」とか「受身」とかは度外視して中国語の主語を説明できるわけである。

「主題の語」は一般的には「既知」「特定」のものが選ばれ、文頭に位置するのが通例である。従って「未知」「不特定」のものを「主題の語」にするには話の場に一度登場させ「既知」のものにしてから文頭の主語の席に就かせる。また同じ文中にあっても「未知」「不特定」のものほど後から表現される。例えば「前面来了一个人（前から人がひとり来た）」といった表現には「前面」という「特定」の主題が先行し最後に「不特定」の「一个人」が表現されている。この文に続く表現では「一个人」は「他（かれ）」とか「那个人（あの人）」とい

た「特定」の表現に転化してゆくことだろう。人称代詞、指示代詞は「既知」「特定」の証明書に用いられることが多い。だが中国語は「既知」「特定」の語しか「主題」になれないわけではない。疑問代詞「誰」を用いた疑問文「誰来？（誰が来るのか）」は「未知」「不特定」の語が「主題」の位置に坐っている例である。「什么是主語？（何が主語か）」も同様である。前者は「有个人来（ひとりの人が来る）」、後者は主語について定義が種々あり決め難いといった状況があつての表現だろう。疑問代詞は「未知」「不特定」のものを「既知」「特定」のものにしようとする特殊な語であるが、その疑問代詞を「主題の語」として文頭の位置に坐らせたのは正しく中国語文法の語順の然らしめる所と言えるのではないか。

また「什么都做（何でもする）」、「一个也没有（一つもない）」について見ると前者は「他做什么？（彼は何をするか）」、後者は「你有多少？（君は幾つあるか）」といった情況に対応した表現だろう。「什么」も「一个」も共に主題の席に坐るのには副詞「也」「都」を伴っている。「一个」には否定詞「没」を伴うという文法的慣例があるが「也」「都」を伴わない場合もある。「一个不殺，大部不捉（一人も殺さず，大部分を捕えず）」。従つて主題が「什么」「一个」といった「未知」「不特定」という点にこだわつて陳述の対象とならないと考える必要はないだろうし、「全体として一つの事実を説明しているもの」と考えるのも苦しいのではなからうか。むしろ「位置主義」を貫徹して「主題の語」と解釈するのが穏当ではあるまいか。しかし文頭には「主語らしくない語」が位置する場合もあつて一概に「主題の語」というわけにもいかない問題がある。「前天有人从太原来（おととい太原から来た人がいる）」、「一会尔又下起雨来（しばらくするとまた雨が降ってきた）」。言語は話の場から切り離されたものではなく、相互に了解できるものから先行させる。従つて文頭に来る表現には「既知」「特定」のものではあるが文全体から見ると「主題」らしくない表現が先行して登場することになるのではないか。

中国語は「述語」を基準にして文を名詞文、動詞文、形容詞文、主述連語文に分ける。「我懂这个意思（私はこの意味はわかる）」は動詞文、「这个意思我懂（この意味は私はわかる）」は主述連語文である。両者の語順の差に説明しよう

とする重点の差が表出される。主述連語文には主語が二つあるが必要な情報を伝えればよいわけだから「既知」のものほど省略される。従って主語がたとえ「主格の語」であれ情報的価値がなければ落される。例えば“这个买, 那个不买(これは買うがあれは買わない)”。中国語には「主題の語」を主語にする自由達さと最少限の情報で間に合わせる厳しさがあると言えよう。

#### 《参考・引用文献》

- 小川郁夫「中国語の『主語』をめぐる問題」名古屋大学中国語学文学論集第四集所載 1984年2月。
- 香坂順一著『中国語学の基礎知識』276頁～291頁光生館昭和46年11月。
- 望月八十吉・高維先共著『中国語学習のポイント』87頁～91頁, 139頁～142頁光生館昭和45年10月。
- 山岸 共「主語」『中国語学新辞典』45頁～46頁所載中国語学研究会編光生館昭和44年10月。
- 藤堂明保著『中国語概論』38頁～44頁, 58頁～59頁, 77頁, 84頁大修館書店1979年5月。
- 呂叔湘著『中国語語法分析問題』大東文化大学外国語学部中国語学科研究室訳70頁～76頁光生館昭和58年1月。
- 吳積才・程家枢編著『現代漢語』291頁～302頁雲南人民出版社1981年8月。